

小林正人「『景気循環』研究序説
—資本主義経済において景気循環は必然的か—」

第 1 章 景気循環と設備投資競争

問題提起

1-3 設備投資と景気変動(p6)の内容から、設備投資が拡大、縮小する原理はどのようなものなのか。

選んだ理由

景気変動によって、需要が変化する中で設備投資はどのような状況で拡大、縮小するのか疑問に思ったため。

A グループ

好況期に需要が拡大すると、企業は競争に打ち勝つために生産能力を増強するための設備投資を拡大していく。不況期には、需要が縮小していくので過剰設備や不良在庫を縮小させ設備投資を必要最小限にする。

B グループ

好況期の需要拡大に伴い、生産能力の増強をするため経営者は設備投資を拡大させる。一方で、不況期に入り、需要が減った場合、生産能力を需要が下回ることはないようにしつつ、他社との競争を維持するため最小必要投資額以上の設備投資が必要となり設備は縮小する。

C グループ

好況期に需要が拡大し続けた場合、企業は生産能力を増強するための設備投資を構想するようになり、企業間の競争が発生し、それにつれて経済全体の生産能力が増加し設備投資が拡大する。一方で、需要が縮小し、不良在庫が膨らんだり商品価格が下落したりした場合、設備投資需要が急減し、企業間の取引や金融機関の融資が減少することで、生産量や稼働率が下がり、設備投資が縮小する。

D グループ

好況期に需要が拡大し続けることで、生産量が生産能力に達して生産設備がフル稼働になったことで、生産能力が増強するために設備投資を拡大する。不況期は既存の生産設備の生産能力を需要が下回り不良在庫が増えるため設備投資は縮小する。

以上